

2020年春 本当の旅はこれから!!

福島ハメルン・プロジェクトジョイントチーム
住所: 656-1724 淡路市野島平林-56
ホームページ: <http://hamelnjoint.com>
電話: 090-1678-0609 (木田) 090-3280-7135 (熊)
メール: joint@hamelnjoint.com

私たちのキャンプと新型コロナウイルス

私たち、福島ハメルン・プロジェクトジョイントチームは、2012年から淡路島を舞台に一時保養キャンプを行っています。キャンプの目的は子どもたちを放射能被ばくから守り、強く賢く思いやりと豊かな心をもつ、楽しい大人へ成長してもらうことです。これまで14回を数えるキャンプで、子どもたちと行った数々のイベントを下記に記しました。

1 淡路島を隅々まで体験したい

・瀬戸内海国立公園の無人島成ケ島での大運動会

・希望の風作りと風揚げ



・釣り大会

・潮干狩り



・ミニバスケットボール大会

・淡路島の子どもも参加する手作りの卒業式

・バレーボール大会



・男女対抗水鉄砲大会

2 プロの手ほどきですぐに上達

・シェフから学んだ蒸しパン・ギョウザ・ピザ作り

・何でも楽器になってしまうフシギ



・ダンサーからは華麗なダンス



・手品師からは不思議なマジック

・けん玉名人からはけん玉サーカス

3 淡路島の自然に触れ

ここでしか経験できないことをしたい

・地元の農家で極早生タマネギとタケノコの収穫と調理
・地元の牧場ハローモーファームでの乗馬体験と馬の飼育



・絵で勝負、工夫で勝負、センスで勝負、型染で旗を作る

子どもたちの宣言

福島ジョイントチームの子どもでもあるぼくたち、私たちは手を取り合ってコロナウイルスに負けない生活をし、このピンチを見せま



明日に向かって! — 私たちの活動記録 2019~2020 —

はじめに

夏の異常気象が続いたことやスタッフの高齢化から、春と夏に年2回行ってきた「ワクワク淡路島発見キャンプ」という私たちの保養キャンプを、2019年から春のみ実施することになりました。14回目となる2019年春キャンプの報告書を皆さまにお送りした後、夏を休止したため1年が過ぎてしまいました。

そして、15回目のキャンプ実施(2020年3月26日~30日)に向け、1年をかけて準備をしていたのですが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、キャンプは中止せざるを得ない状況となりました。その間にも、多くの皆さまからご支援をいただけてきました。

ここに、実施できなかったキャンプの準備の内容を含め、この1年間の私たちの活動内容をまとめ、ご支援いただいている皆様へのご報告とさせていただきます。

再出発の1年スタート

実質的に2012年から活動を始めた私たちの保養キャンプは、ひとつの転換期にきていました。リピーターを大切に運営してきましたが、8年の時が流れ、子どもたちが中学生、高校生となり、部活動等のためキャンプに参加しにくい状況が生まれていたのです。

一方、保養キャンプ実施団体が参加する「311受け入れ全国協議会」は「ほよ〜ん相談会」を福島で毎年実施していました。そこで、この相談会に参加し、新たな参加者の開拓を試みたのです。2019年6月、いわき市(8日)と二本松市(9日)で行われた相談会には、北海道から沖縄まで全国から保養を実施する45団体あまりと医師が参加。浜通り相談会(いわき市)には307人、中通り相談会(二本松市)には208人の来場がありました。2019年から教育委員会が後援に入ったため、学校で配られたチラシで知り保養相談会に足を運んだという方が7割を占めていました。

子どもを保養に参加させたい目的は「放射能の影響が気になるため」「日常の外遊びはできているが、自然体験活動が減ったため」「精神的成長のため」などで、3.11事故後に生まれた子どもを持つ保護者も多く、地元では多くを語れない不安や悩みを抱えながら、子どもには少しでも思い切り外遊びをさせてやりたいという保養への根強い希望が感じられました。また来場者の3割ほどが、一時避難をしていたけれど、国の家賃補助が無くなりやむなく帰還したとアンケートに答えていました。まだまだ多くの方々、保養キャンプを求めているのです。

新しい仲間たちとめざしたもの

私たちのブースにも多くの保護者が足を運んでくれました。二つの会場で参加希望者を募り、12月に各家庭に連絡を入れたところ、なんと18家族52人の申し込みがありました。宿舍の大きさと、スタッフの態勢から受け入れは5家族が限度。リピーター家族のキャンセルなどがあり、調整の結果、5家族18人で春キャンプを行うことになりました。1家族は、第1回キャンプ参加者でしたが淡路でのキャンプは初めて(初回のみ豊岡市で実施)、残り4家族は初参加です。

福島ー伊丹間の航空券の手配、宿舍となるゲストハウスの予約、私たちのキャンプの大切な取り組みである健康診断をしてくださる東神戸診療所へ提出する参加者情報のとりまとめなど、準備作業を進めました。また、キャンプでのイベントも、淡路島の最北部にある大阪湾海上交通センターの見学や宿舍のゲストハウス花野での五右衛門風呂体験、プレイパーク淡路島冒険の森でのビザ窯チャレンジ、「はるかのひまわり絆プロジェクト」との合同イベントなどを計画。学びと遊びにあふれた4泊5日を目指しました。しかし、参加者のためのキャンプ通信を6号まで送ったところで、中止に追い込まれてしまったのです。

見えないウイルスとの闘いは、見えない放射能と向き合う福島の人々に、さらなる試練を与えています。次回は来年春のキャンプ。その時までには新型コロナウイルスの感染が終息していることを祈るばかりです。

航空券キャンセル料のこと

2月26日午前、航空券の手配を頼んでいた郡山市の旅行会社に着てキャンセルの連絡を入れました。その日の午後、安部首相が2週間の大規模イベントの中止・延期を要請。翌日、春休みまで全国の学校を臨時休校すると発表しました。航空各社も対応をとり、3月19日までに搭乗する航空券のキャンセル料は免除となりましたが、私たちは3月26日と30日のチケット20万円ほどのキャンセル料が発生しました。

そして、この報告書にキャンプ関連支出を記載するため、航空会社のホームページを見たところ、なんと対象期間が延長されていたのです。手続きのうえキャンセル料はすべて戻ってきました。新型コロナウイルス感染拡大への対応は日々刻々と変化していること、そして、自分からアクセスしなければ情報はもたらされないことを痛感した出来事でした。この報告書が皆様のお手元に届くころ、30万円と2枚のマスクの行方はどうなっているのでしょうか。

活動報告

- 3月28日～4月1日「2019 春休みワクワク淡路島発見キャンプ」実施
- 5月初旬 キャンプ報告書発送
- 5月末 わくわく農園の無農薬栽培の玉ねぎ、ジャガイモ収穫、発送
- 6月8日、9日「2019 夏ほよ～ん相談会」(いわき市・二本松市 主催：311 受け入れ全国協議会相談会事務局)
- 6月17日 チャリティー童話「ゆ・く・え・ふ・め・い」(文：木田拓雄 絵：だるま森 発行：(株)サイプレス) 発売「奇跡の木」「本から生まれるものは愛」に続くチャリティー本の第3弾
- 6月21日 兵庫県立淡路高校「防災と心のケア」講座 保養キャンプ紹介
- 8月2日～5日 福島にカリノコモオレンジキャンプ 2家族4人参加
- 8月 オレンジ基金による検診実施 受診者2人



- 8月24日「避難者交流会」ブース展示・物販(会場：大阪・英真学園高校 主催：大阪府下避難者支援団体等連絡協議会)



- 9月21日「アーサー・ピナード講演会 with みんなのデータサイト「ちっちゃいこえがあつまって」」ブース展示・物販(会場：神戸市立婦人会館 主催：さよなら原発神戸アクション)

- 10月 台風19号で被害にあったキャンプ参加者へ水害見舞
- 11月2日「ALPHA 祭」ブース展示・物販(会場：兵庫県立淡路景観園芸学校)
- 1月17日「1.17から25年 あなたは何を想いますか？鎮魂と感謝のコンサート&防災講演会」ブース展示・物販(会場：宝塚市立中央公民館 主催：阪神大震災を考える会)
- 2月 オレンジ基金による検診実施 受診者4人
- 2月25日 キャンプ中止を決定



愛しき抵抗に感謝と励ましを!

新型コロナウイルスと戦う医療従事者・介護の現場職員の方々などすべての不屈の人たちへ感謝の気持ちと支援を送ります。私たちの2020年の活動に多くの寄付をいただきありがとうございます。頂戴した寄付は、私たちの生命および地球上で共生する多くの動植物を守り、地球環境の悪化を防ぐ活動に使わせていただきます。



福島ヒカリノコモオレンジ基金の現状について

泉南生活協同組合オレンジコープさんからの寄付金を基に、2017年3月から設けた「福島ヒカリノコモオレンジ基金」は、子どもたちや避難者の健康を守る活動の強化に特化して運用する基金です。2018年春キャンプ報告書以降、会計報告が中断してしまっていたので、今回、2020年3月末時点での基金の現状を報告します。

<基金> 500,000円

<収入計> 847,302円(全額寄付金)

<支出計> 426,716円(内訳 診療費 271,210円、オレンジキャンプ補助金 109,510円、チラシ印刷・発送代等 62,276円)

2020年3月末時点での基金総額は904,306円です。



私たちはなぜ春のイベント中止を決断したか？

新型コロナウイルス大暴れする

「オリンピックイヤーの 2020 年、のんびり過ぎていく松の内のあとに、だれが数週間後に起こる、コロナによる信じがたい大混乱を予想できたでしょう。とりあえずの取っ掛けとして、私はコロナの正体を捕まえるのにふさわしい言葉を探しましたが、行きつく言葉は「ぬえ」や「ヒドラ」ばかり。「広辞苑」を開けば以下の解説に出会います。『ぬえ』は伝説上の怪獣。頭は猿、胴は狸、尾はヘビ、手足は虎、声はトラツグミ…。果たしてこれがコロナでしょうか？

「ぬえ」は次々に姿を変える怪獣

「新型コロナウイルス」なる言葉を初めて耳にしたのは、2 月のはじめころでした。「中国では謎の肺炎が流行している。どうもコウモリを常食にしている人からの感染らしい」との囁きが、コロナウイルスの第一報でした。なにやら不気味な雰囲気です。ところがこの感染拡大を報じるニュースが、発生源の中国を超え、韓国・日本・イラン・イタリア・フランスへと飛び火し、感染者が世界全体で 8 万 8 千人を超え、死者は 3000 人に達すると速報されるまでに、1 ヶ月を待つ必要がありませんでした。恐ろしい事態になったものです。

イベントの中止要請を私たちはなぜ受け入れたのか

ここから先は、雪崩が街を襲うように、破壊的で終末観

に彩られたニュースとなって、新聞紙面を飾り、テレビで不安げな人々の表情と共に、私たちのお茶の間に押し寄せてきました。同じニュースが家庭に留まる時間も与えず、さらにショッキングな続報が私たちの心を追いつめていきます。パンデミックの危険が喧伝され、企業や学校の休業休校が報じられ、多くの国境が閉鎖され、日本でもついに、不要不急の外出は禁じられます。私たちにもう気ままに街をさまよう自由すらないのです。夜に町内をぶらつくことも、国を崩壊に導く無秩序と同義となり、私たちは息をひそめ、社会が壊れていくのを見つめるしかなくなりました。

春の 6 つのイベントの中止を決定。

中止要請が伝えられると、春に予定していた 6 つイベントのうち 1 つを残し私たちは即座に中止を決めました。新型コロナウイルスによる感染が広がり、それが地球に生きる動植物の脅威となるなら、私たちはそれを防ぐ行動をすべきであり、それこそ地球を救い、自分のいのちのみならず子どもや共生する仲間のいのちを守ることにつながるというのが、私たちの考えでした。このナイーブな考えはいまだ私たちの立場ですが、汚染がここまで進んでしまった後には、有効な意味を持たないため、私たちはチラシの完成をここで放棄しました。（以上の理由により、これ以降の原稿を私たちは中断しました）